

日時 23年6月11日(土) 8:40~12:10

場所 日本橋小学校体育館(東京都中央区)

<http://www.chuo-tky.ed.jp/~nihonbasi-es>

【授業タイトル】

1年2年 「ともだちは、なにを しているのかな？」

3年4年 「目玉焼き事件は、なぜおきたのか！」

5年6年 「プッチンプリン アイディアはどこから生まれたのか？」

授業内容

1・2年生

「ともだちは、なにを してるのかな？」

授業の前に、絵本「ともだち」谷川 俊太郎 作 和田 誠 絵 を読み聞かせしました

昨日の夜7時に何をしていたのか聞いて、

「友達とは自分とは違うことをしている」と認識してもらいました

仲良しでも「やることは違うんだ」と感じてもらい

メールをしても、直ぐに返事がないこともあるけど

「お互いがお互いを受け入れる気持ちを持つことの大切さ」を気づかせました。

「相手には相手の都合がある」こと、

そして、時には断ることも許されると伝えました。

授業内容終了後

絵本「さっちゃんとなっちゃん」浜田 桂子 作 絵



ともだち

谷川 俊太郎 作・絵



さっちゃんとなっちゃん

浜田 桂子 作・絵

3・4年生

「目玉焼き事件は、なぜ起きたのか？」

自動修学旅行中に起きた目玉焼き事件のエピソードから「自分とは考え方の違う人がいる」ことに気づかせ、喧嘩がなぜ起きるのか、問い掛けをしながら

「怒りを感じる時はどんな時なのか？」友だちと意見交換の時間を設けました。

そして“誤解”も喧嘩の要因の1つであると説明をして

どんな時に誤解が起きやすいのか、児童を交えて実験を行いました。

児童は、「メールや電話では伝わらないこともある」と気づくことで、

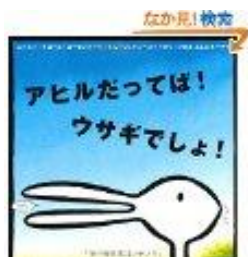
「相手の顔を見て話すのが大切」と学びました。

授業内容終了後、

絵本「アヒルだってば！ウサギでしょ！」エイミー・クローズ・ローゼンタール／

トム・リヒテンヘルド 作 今江 祥智 訳

「ひなたぼっこです」高島 純 作・絵 を読み聞かせしました。



アヒルだってば！ウサギでしょ！
エイミー・クローズ・ローゼンタール・
トム・リヒテンヘルド 作
今江 祥智 訳



ひなたぼっこです
高島 純 作・絵

5, 6年生

「プッチンプリンのアイデアはどこから生まれたのか？」

児童は、プッチンプリンが落ちる瞬間の動画から、知的財産を目で確認します。
プッチンプリンにはアイデアによって生まれ
それが特許であると学び、権利収入の存在まで理解しました。

権利収入を理解できたところで、
次に、著作権の侵害事例から、著作権の侵害をしたら
著作者がどんな気持ちになるのかを考えました。

さらに、小学校4年生が特許を取得した事例や、
生活用品の中から特許商品を紹介して、
アイデアの素晴らしさを感じてもらいました。

授業内容終了後

絵本「なにをかこうかな」マーグレット&H・A レイ 作 中川健蔵 訳
全授業案ともに、絵本と授業内容と直接リンクをさせるのではなく、
子どもたちの感性に委ねるスタイルをとりました。



マーグレット&H・A レイ 作
中川健蔵 訳

絵本からのメッセージを押しつけるのではなく、
それぞれの子どもたちが、絵本から感じ取るもの、心に染み込み積もるもの
それらが、ネット社会で生きる上で、大切な心を育んでくれることでしょう

全学年ともに、授業のテーマを持ち帰り
家庭で、それぞれのテーマについて親子で話合う宿題が出されました。

情報モラル授業では、各自がネットと触れ合う時間に差があるため、
授業内容をネットだけにスポットを当ててしまうと、理解が深まらないケースがあります。

したがって、ネット体験時間が異なる児童が対象であることを念頭に置き
各自の日常生活とリンクをさせて、子どもたち自身が学びを得られるように配慮をします。
ネット社会で必要な事柄は、日常生活で体験済みなことも多くあり、
情報モラルとして学ぶべきテーマを、宿題としてそれぞれ親子で話し合う時間を持つことで、
児童が自分なりに学びを深めてくれることでしょう。